

活動団体： 特定非営利活動法人 ISAPH（アイサップ）

International Support and Partnership for Health
～Health for all すべての人が健康を「自分のもの」と考える世界を目指して～

団体の活動



開発途上国での保健医療協力を実施する団体として2004年に設立しました。ラオス・マラウイでの地域保健事業の他、研究や人材育成を通して、グローバルな社会課題の解決にも取り組んでおります。“住民を中心に考える”、“科学的に考える”、“イノベーティブに考える”という活動指針の基、一人ひとりが、「自分の健康は自分で守る」ことができるような人づくり・社会づくりを目指した草の根活動を実施しています。

<https://isaph.jp/>



郡保健局・保健センター職員への再教育研修のサポート



母子継続ケア支援事業：アウトリーチ活動へ同行

インターンプロフィール

三浦 夕季



幼少期に医療格差に疑問を持ち看護師を目指す。集中治療分野で臨床経験を積んだ後、語学留学のため渡豪。WHO ラオス事務所でのコンサルタントとしての経験を機に国際協力の道へ。2024年5月よりISAPH ラオス事務所に着任。

所属団体で活動するきっかけ

国際協力での専門性の深化への思いと同時に現場での仕事にやりがいを感じておりました。ISAPH は草の根事業の経験が豊富であり、現場での活動を通しログフレームを学ぶことのできる最適な環境であると感じ参画しました。

どのような業務(活動)をおこなっているか

ラオス国カムアン県サイブートン郡での母子継続ケア支援事業及び栄養改善事業を担当しています。母子継続ケア支援事業の一環として郡保健局・保健センターの職員が月に一回村に訪れて行っているアウトリーチ活動での運営管理業務をはじめ、会計業務などの事務所運営業務や広報業務、教育・研修事業におけるスタディーツアー業務、会議の運営管理業務や次期案件形成のための業務の補助など多方面に活動しています。

スキルアップのためにしていること

論文の閲読や、仮説形成、分析、評価を意識し PCM のフレームワークへの学びを深めています。また、会議や報告会でのアウトプットや、明確に伝えることを意識した対話、他団体との関係構築も行っております。

海外研修について ～どこで何を行う予定？

国際協力事業の実務能力を強化するため、ラオス事務所に長期間所属し、経験の豊富な指導者のサポート下で、担当業務を現地スタッフやカウンターパートと連携・協働しながら実際に遂行します。

今後のビジョンは？

問題発見・調査能力、コミュニケーション能力を強化し現地のニーズや課題に沿った持続性、再現性のある解決策の開発、案件形成や資金調達など開発協力事業で戦力として従事できるようになることを目標としています。

国際協力分野で活動を目指す人へのメッセージ

国際協力は敷居が高い、何から始めていいかわからないと思う方もいると思いますが、何か少しでも関連することから挑戦してみると、たとえ遠回りでもそのきっかけや環境の変化がその道につながると信じております。

団体アピール

ISAPH は今年で20周年を迎え、これまで母子の健康増進に大きく貢献してきました。「自分の健康は自分が守る」と、人や地域が主体となって健康について学び、行動を変えていけるよう寄り添った支援を届けていきます。



教育・研修事業：大学スタディーツアーでの引率



広報事業：ISAPH 事業報告会への参加